

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

「自分で選ぶ」ことの大切さ

～ユネスコスクールとしての育ちを、日々の中に～

入学式の日。会場を彩っていたたくさんの花の植木鉢の中から、

「一つ、好きな花を選んでおうちに持って帰っていいよ」と一年生に伝え、子どもたちは迷いなく、自分の好きな花をさっと手に取りました。「これがいい!」その姿に、子どもたちが自分の気持ちにまっすぐに向き合っている様子がよく表れていて、とても印象的でした。



そんな子どもたちの姿が、先日もう一度、花の苗植えの活動の中で見られました。

地域の新井妙高ロータリークラブ様からたくさんいただいた花の苗を、ロング昼休みにボランティアで植え替えることにしました。放送で「やってみたい人は玄関前に来てください」と呼びかけると、思い思いの理由で集まってくれた子どもたちがいました。

「お花が好きだからやってみたい」「外に出て何かしてみたかった」——どの子も、自分で「やろう」と決めて動いてくれたことが、なにより嬉しかったです。

一方で、外で遊んでいた子の中には、「やりたくないのにやらされるのかな…」と心配する様子もあったそうです。そう感じるのも自然なこと。無理にやらせるのではなく、「**やってみたい**」「**やってみようかな**」という気持ちを大切にできる場を、これからもつくりていきたいと改めて思いました。

苗植えをした子もしない子も、グラウンドや体育館で遊んでいた子も、「1回目のボランティアはできなかったけど2回目の花植えボランティアには絶対来たかったんだ」と笑顔で作業していた子も、朝登校してしばらくプランターの花をじっと眺めている子も

—— 引け目や負い目を感じることなく、プランターの前を通り過ぎるときに、純粹に心から「**きれいな花だなあ**」と感じられたら素敵だと思いませんか。



わたしたちの学校は、ユネスコスクールに加盟しています。これは、子どもたちが持続可能な社会の担い手として育っていけるように、「自分で考え、選び、行動する力」や「まわりの人や自然とのつながりを感じる心」を育てていく教育を大切にしているということです。

小さな苗を植える活動にも、子どもたちが自分で選び、誰かと関わり、地域や自然とつながろうとする姿がありました。そうした日々の積み重ねが、きっとこれからの大きな力になっていくと信じています。

これからも、子どもたち一人ひとりの思いや選択を温かく見守りながら、地域やご家庭といっしょに育ち合う学校でありたいと思っています。

みらいトーク・第1回学校運営協議会

斐太北の教育説明会



4月14日(月)に、「第1回みらいトーク」を開催しました。低学年部・中学年部・高学年部の3グループに分か



れ、ESDの視点から、学校職員とCS委員で「みらい学習」の内容や進め方について、意見交換を行いました。「地域の教育力が素晴らしく、学校と地域が win-win の関係を築いている斐太北小学校CSの取組を勉強させてほしい」という思いの下、文部科学省総合教育政策部 CS マイスターの小見まいこ様も参加し、指導助言をしてくださいました。どのグループも「目からうろこ」の情報が飛び交い、大変有意義な会合となりました。今後の実践が楽しみです。



その後、第1回学校運営協議会を開催し、「斐太北小学校グランドデザイン」を説明し、今年度のみらい学習の運営方法を確認しました。CS会議で話題になったことを以下に紹介します。

【学校から】

- ・ユネスコスクールとしての登録報告と創立150周年記念となる今年の学校の教育活動にご協力をいただきたい。
- ・本当に子どもが主役になった活動になっているか、「みらい学習」を見つめ直していく。

【CSから】

- ・勿論、全面的に協力させていただく。保護者や地域住民へも呼びかけ、協力体制を拡大する。

4月22日(火)、PTA 総会の後に「斐太北の教育説明会」を開催しました。この会は、今年度の「斐太北小学校グランドデザイン」及び学校行事の精選やPTAの皆さんと一緒に考えていきたいPTA活動や組織の見直し等について校長から保護者の皆様に説明する会です。説明後、会場にいらした保護者の方々から自然と拍手が起こったことが印象に残っています。「みらい学習」については、この春少し時間をかけて検討しております。「みらい学習」を中核に、様々な教育活動においてESDを展開し、みんなが主役の斐太北小学校をみんなで創っていきます。「みらい学習」計画書は、次号のESD日よりご紹介します。